

09款	消防費	01項	消防費	01目	常備消防費	
事業名					職員教育訓練等事業費	単位：円
事業内容	消防組織法第52条に規定する消防職員教育等 1 県消防学校教育訓練 2 救急救命士関係資格、技能取得 3 消防業務用資格取得（小型移動式クレーン、玉掛技能等）			計	消防学校 10人 救急救命士 養成課程研修 1人 就業前研修 1人 気管挿管認定 1人 生涯教育 9人 消防業務資格取得 6人	
	成果	1 県消防学校教育訓練派遣により、火災原因調査科及び救急科、救助科等の専門知識取得による消防技術の向上がなされた。 2 救急救命士養成課程研修1名、就業前研修及び気管挿管認定養成に1名救急救命士生涯教育に9名を派遣し、救急救命士の知識及び技術の強化がなされた。 3 消防業務資格として、小型移動式クレーン運転資格、玉掛け技能講習、予防技術検定資格等各種資格を取得し、現場活動の強化に努めた。 4 全国消防救助技術大会に岩手県代表として出場し、救助技術向上に努めた。			実績	消防学校 10人 救急救命士 養成課程研修 1人 就業前研修 1人 気管挿管認定 1人 生涯教育 9人 消防業務資格取得 6人
予算額	決算額	財源内訳				
		国県支出金	地方債	その他	一般財源	
5,713,000	5,425,699	0	0	0	5,425,699	

09款	消防費	01項	消防費	01目	常備消防費	
事業名					救急救助費	単位：円
事業内容	災害現場での円滑な活動と迅速な傷病者の救出を行うために、救急車積載の医療用機器の確実な定期点検により安全な現場活動を図る。 交通事故現場等で、少人数での活動を容易にするために救助器具を整備し迅速な救出活動を図る。			計	医療用機器定期点検 12台 救助器具購入 1台	
	成果	確実な定期点検により、異常箇所及早急な対応がとれたことから安全な救命活動が図れた。 救助器具を宮守出張所に配備したことにより、応援隊を待たずに早期の救助活動が図れた。			実績	医療用機器定期点検 12台 救助器具購入 1台
予算額	決算額	財源内訳				
		国県支出金	地方債	その他	一般財源	
5,730,000	5,703,623	0	0	0	5,703,623	

09款	消防費	01項	消防費	02目	非常備消防費	
事業名					消防団出場管理費	単位：円
事業内容	消防団員の活動についての諸経費			計 画 値	団員条例定数	935人
	1 非常勤職員報酬は年額で定めている報酬を四半期に分けて支給する。 2 旅費は団員の消防学校における教育訓練に支給し、費用弁償は災害時、演習、訓練、または、警戒等に従事した場合に支給する。 3 消防団員の被服等を整備する。 4 公務災害補償に加入し、消防団員が退職した際に退職金を支払う。消防団員が活動中に負傷等が発生した場合に支給する。 5 分団運営費補助金を支給する。				現有団員（H28.4.1）	915人
					内 機能別団員	76人
					報酬	24,341,000円
					旅費	266,000円
					費用弁償	17,710,000円
					消耗品費	4,231,000円
					負担金	22,168,000円
					補助金	585,000円
成果	1 非常勤職員報酬は消防団員909人、機能別団員79人に対して四半期に分けて支給した。 2 旅費及び費用弁償 県消防学校で行われる消防団員専科教育に消防団員が入校し、各種教育課程で専門知識を習得し、災害活動及び各種消防団行事で地元消防団員の指導を行った。また、火災、水害等の災害出動、消防訓練及びポンプ操法訓練等に対し、費用弁償を支給した。中でも台風10号襲来時には、事前に土のうを作成し備蓄、河川等の警戒監視、安否確認等幅広く活動した。ラッパ隊が兵庫県福崎町でドリル演奏を披露した。 3 消耗品費 新任消防団員の被服一式を購入し、貸与したことで災害活動及び消防団行事で規律と士気が高揚し、組織活動の統制が図られた。（平成28年度新入団員 25人） 4 負担金（市町村総合事務組合） 団員が退団した際に、勤続年数によって退職金が支払われた。（31人） 災害活動等において負傷した消防団員に補償金が支払われた。（3人） 5 補助金 各分団（団本部、ラッパ隊含む）に円滑な運営、活動ができるよう補助金を支給した。（45,000円×13カ所）			実 績 値	非常勤職員報酬	23,800,163円
						旅費 26人分
					費用弁償（延人数）	
					火災	394人
					その他災害	1,518人
					演習・出初式	1,945人
					防災/教育訓練	643人
					予防活動、その他	1,375人
					ポンプ操法	2,025人
					消耗品費（被服等）	4,230,672円
					負担金 （市町村総合事務組合）	22,162,851円
					補助金（分団運営費）	585,000円
予	算	額	決	算	額	
		74,412,000			72,041,889	
				財 源 内 訳		
		国 県 支 出 金	地 方 債	そ の 他	一 般 財 源	
		0	0	0	72,041,889	

09款	消防費	01項	消防費	02目	非常備消防費															
事業名					消防団消防操法事業費	単位：円														
事業内容	消防操法により消防団員の消防技術の向上と団結力を図る。 1 遠野市消防操法競技会開催に係る諸経費等（隔年実施） 2 遠野釜石地区支部消防操法競技会出場に係る諸経費等（隔年実施） 3 岩手県消防操法競技会出場に係る諸経費等（隔年実施） 4 全国消防操法大会出場に係る諸経費等（隔年実施）			遠野市消防操法競技会 6月19日（日） 遠野釜石地区支部消防操法 競技会 7月3日（日） 岩手県消防操法競技会 矢巾町 7月24日（日） 全国消防操法大会 長野市 10月14日（金）																
				計 画 値																
成果	遠野市初の全国消防操法大会に出場し、技術の習得と消防団の団結力、総 合力が発揮された。 1 遠野市消防操法競技会 遠野市消防団、全11分団39個部が出場した。 2 遠野釜石地区支部消防操法競技会 遠野市大会上位、各3個部が出場した。 （ポンプ車の部 9分団2部、7分団1部、5分団4部） （小型ポンプの部 5分団2部、10分団6部、9分団6部） 3 岩手県消防操法競技会 遠野釜石地区支部大会で優勝した2個部が出場した。 ポンプ車の部 9分団2部（練習日数 18日） 小型ポンプの部 5分団2部（練習日数 16日） 4 全国消防操法競技会 岩手県消防操法競技会ポンプ車の部で優勝した9分団2部が出場した。 （練習日数 33日）			遠野釜石地区支部消防操法 競技会において、ポンプ車 、小型ポンプの部に出場し た全隊が3位以上を獲得 岩手県消防操法競技会 ポンプ車の部 優勝 9分団2部 （全国大会出場権獲得） 小型ポンプの部 4位 5分団2部 全国消防操法大会 （長野市） ポンプ車の部 第5位 9分団2部																
				実 績 値																
予	算	額	決	算	額	財	源	内	訳											
						国	県	支	出	金	地	方	債	そ	の	他	一	般	財	源
		8,302,000			7,596,585			0		0			0			0				7,596,585

09款	消防費	01項	消防費	03目	消防施設費													
事業名					消防車両更新事業費	単位：円												
事業内容	<p>消防力を強化するため、消防団に配置している小型動力ポンプ（2台）、小型動力ポンプ積載車（1台）、小型動力ポンプ軽積載車（1台）、消防ポンプ自動車（1台）を更新整備し、市民生活の安全確保を図る。</p>			<p>小型動力ポンプ 2台 小型動力ポンプ積載車 1台 小型動力ポンプ軽積載車 1台 消防ポンプ自動車 1台</p>														
				計 画 値														
成果	<p>消防団に配備している小型動力ポンプ（2台）、小型動力ポンプ積載車（1台）、小型動力ポンプ軽積載車（1台）、消防ポンプ自動車（1台）を更新したことにより、消防防災力の充実強化と市民生活の安全確保を図ることができた。</p> <p>【更新配備先】</p> <p>1 消防団第2分団第3部 山口 （小型動力ポンプ、小型動力ポンプ積載車）</p> <p>2 消防団第4分団第2部 沢の口 （小型動力ポンプ軽積載車）</p> <p>3 消防団第7分団第4部 中沢 （小型動力ポンプ）</p> <p>4 消防団第9分団第1部 桐町 （消防ポンプ自動車）</p>			<p>小型動力ポンプ 2台 小型動力ポンプ積載車 1台 小型動力ポンプ軽積載車 1台 消防ポンプ自動車 1台</p>														
				実 績 値														
予	算	額	決	算	額	財	源	内	訳									
				国	県	支	出	金	地	方	債	そ	の	他	一	般	財	源
36,771,000		36,769,680		6,000,000		13,000,000		14,210,000		3,559,680								

09款 消防費		01項 消防費		03目 消防施設費	
事業名 消防防災施設等整備事業費					単位：円
事業内容	1 消防団活動の拠点施設であるコミュニティ消防センターの整備充実を図り、消防団活動の活性化と地域防災力を強化し、安全安心な地域づくりの確保に努める。			計 画 値	松崎町第4区コミュニティ消防センター設計業務
	2 消防水利が不足している地域に耐震性貯水槽及び消火栓を設置し、消防水利の充実強化を図る。				耐震性貯水槽新設 2基 消火栓新設 2基
成果	1 松崎町第4区コミュニティ消防センターの設計業務が完了した。消防団活動の活性化と地域の防災力を強化し、安全安心な地域づくりに繋がることが期待される。			実 績 値	松崎町第4区コミュニティ消防センター設計業務
	2 耐震性貯水槽及び消火栓の設置により、計画に基づく施設整備を行うことができ、住民の不安解消にもつながり、消防水利の充実強化を図ることができた。 【耐震性貯水槽設置箇所】 宮守町涌水地区、上郷町暮坪地区 【消火栓設置箇所】 綾織町滝沢地区、土淵町野崎地区				耐震性貯水槽新設 2基 消火栓新設 2基
予算額	決算額	財 源 内 訳			
		国県支出金	地 方 債	そ の 他	一 般 財 源
19,941,000	19,940,040	5,386,000	14,300,000	0	254,040

09款	消防費	01項	消防費	03目	消防施設費	
事業名					消防団待遇向上事業費	単位：円
事業内容	<p>1 消防団員が災害活動における安全確保を目的とし、機能性、活動性に優れた新基準の安全装備品である防火衣一式を更新するもの。</p> <p>2 現任消防団員及び新入消防団員の災害活動用及び消防団行事用の防寒衣を貸与するもの。</p>			<p>防火衣（上衣） 9 6 着</p> <p>防火帽（しころ付き） 9 6 組</p> <p>防火用ベルト 9 6 個</p> <p>ケブラー手袋 9 6 双</p> <p>火災現場用銀長靴 9 6 足</p> <p>防寒衣 9 3 0 着</p>		
				計 画 値		
成果	<p>1 消防団員が火災時に着用する防火衣一式の機能性、活動性に優れた新基準の安全装備品である防火衣一式を更新することができ、団員の安全確保を図ることができた。</p> <p>2 消防団員が災害活動及び消防団行事での防寒対策が図られ、防寒衣が統一されたことにより、組織活動としての統制も図ることができた。</p>			<p>防火衣（上衣） 9 6 着</p> <p>防火帽（しころ付き） 9 6 組</p> <p>防火用ベルト 9 6 個</p> <p>ケブラー手袋 9 6 双</p> <p>火災現場用銀長靴 9 6 足</p> <p>防寒衣 9 3 0 着</p>		
				実 績 値		
予 算 額	決 算 額	財 源 内 訳				
		国 県 支 出 金	地 方 債	そ の 他	一 般 財 源	
20,505,000	20,252,916	0	0	0	20,252,916	

09款	消防費	01項	消防費	04目	防災諸費	
事業名					防災対策事業費	単位：円
事業内容	1 地域防災計画、水防計画の修正と実施を推進させるため防災会議を開催する。 2 後方支援に関する対策、整備を図るため関係市町村で構成する三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会を開催する。 3 住民の生命、身体及び財産保護措置を的確かつ迅速に実施するため国民保護協議会を開催する。 4 災害対策として、非常食の備蓄及び防災資機材の整備を行う。			計 画 値	地域防災計画等の修正（年1回以上） 防災会議の開催（年1回以上） 国民保護協議会の開催 非常食の備蓄（市の人口の1/3の1食分） 水防資機材の整備 防災資機材整備	
	成果	1 市防災会議を開催して県地域防災計画と整合を図り、地域防災計画を修正した。 また、台風10号への事前対策を協議した。 2 非常食の備蓄（市の人口の1/3の1食分）の更新をした。 3 防災資機材整備として土のう袋や砂を購入し、水害対策を図った。			実 績 値	地域防災計画等の修正 防災会議の開催（2回） 非常食の備蓄 防災資機材整備
予算額		決算額	財源内訳			
			国県支出金	地方債	その他	一般財源
1,464,000	1,364,645	0	0	0	1,364,645	

09款	消防費	01項	消防費	04目	防災諸費	
事業名					まちまるごと防災事業費	単位：円
事業内容	市民の「生活の安全確保」を図るため、「自分の地域は自分たちで守る」という意識を持ち、地域住民が安全で住みよいまちづくりを構築するため、自主防災組織の育成、強化を図り、防災リーダーの養成を努める。			計画値	全行政区（90行政区）の自主防災組織結成、育成強化 防火防災講習会参加者 500人 消防フェア参加者 400人 チャレンジ防災スクール参加児童 50人 応急手当普及員資格者 40人	
	成果	<p>1 市内の自主防災組織4組織で防火防災講習会を開催し、意見交換等を通じて地区の防災力強化を図った。</p> <p>2 市内11会場で地区別防災研修会を開催（2回）。大雨対策、避難情報の伝達体制、自主防災組織の初動体制を確認した。さらに、台風災害（アイオン台風、昭和56年台風15号、平成28年台風10号）による浸水エリアの聞き取りを行い、防災ハザードマップ整備の基礎資料とした。</p> <p>3 総合防災センターを会場として消防フェアを開催し、救急講演会、救助展示、煙体験、初期消火訓練、放水訓練により市民の防火意識の向上を図った。</p> <p>4 チャレンジ防災スクールに市内の小学校から30人が参加し、非常食体験、消防体験、防災マップ作成等の学習カリキュラムにより、防災意識の高揚につなげた。</p> <p>5 応急手当での普及に努める目的として、今年度6人の受講を行い、自治会、企業など救命講習会に延べ39人の応急手当普及員が講師として出向し普及を図った。</p>			実績値	<p>自主防災組織結成率97.8%</p> <p>防火防災講習会参加者 472人</p> <p>消防フェア参加者 200人</p> <p>チャレンジ防災スクール参加児童 30人</p> <p>応急手当普及員資格者 47人</p>
予算額	決算額	財源内訳				
		国県支出金	地方債	その他	一般財源	
2,602,000	2,357,349	0	0	0	2,357,349	

09款	消防費	01項	消防費	04目	防災諸費	
事業名					防災教育推進事業費	単位：円
事業内容	<p>東日本大震災の被災地及び当市への避難者に対する継続的な支援を実施するとともに、震災の風化を防ぐため、遠野市民が官民一体で行った後方支援活動の取り組みと震災から得た教訓を広く全国に発信する。</p> <p>また、災害が発生又は発生するおそれがある場合は、関係機関等と連携し迅速かつ適切な災害対応を実行するとともに、友好都市等の連携自治体等が被災した場合にあっては、迅速に支援活動を実施する。</p> <p>1 東日本大震災後方支援活動に係る行政視察、講演依頼等への対応 2 東日本大震災後方支援資料館研修感想文コンクールの実施 3 東日本大震災犠牲者追悼記帳所の設置 4 東日本大震災の発災から6年の「防災の集い」の開催 5 「第3回自治体の災害時後方支援に関する研究会」の開催</p>			計画値	視察対応 76件(1,139人) 講演出講 6回	
	成果	<p>1 全国からの視察や講演に対応し、後方支援活動を広く全国に発信した。 2 小学生を対象とした後方支援資料館研修感想文コンクールを実施し、児童への防災教育に取り組んだ。 3 東日本大震災犠牲者を追悼するため記帳所を2カ所設置した。 4 東日本大震災の発災から6年の仮設住宅や復興に向けた災害公営住宅の建設の取り組みの紹介などを内容とした「防災の集い」を開催した。 5 「第3回自治体の災害時後方支援に関する研究会」を開催し、今後の自治体連携のあり方について意見交換し共通認識を図った。 6 平成28年台風10号の対応の検証を行い今後の災害対応の教訓とした。 7 平成28年熊本地震及び平成28年台風10号の発生に伴い、熊本県菊池市及び岩泉町に対し支援物資の提供や職員を派遣し復興支援を展開した。</p>			実績値	視察対応 67件(898人) 講演出講 6回 「防災の集い」参加 170人 「第3回自治体の災害時後方支援に関する研究会」参加 82人(11自治体10団体)
予算額		決算額	財源内訳			
		国県支出金	地方債	その他	一般財源	
12,890,000	12,222,085	354,000	0	831,330	11,036,755	